


海外派遣研究助成事業による研究の成果

研究者氏名	服部 有俊 
所属機関	順天堂大学医学部附属順天堂医院 呼吸器外科学講座
<ul style="list-style-type: none"> ・研究に従事した外国の研究機関名 ・参加した国際学会・会議名 	国際学会名: The society of thoracic surgeon (米国胸部外科学会議、第 54 回) 開催地: Fort Lauderdale, Florid, USA (フォートローダデー、フロリダ、アメリカ合衆国)
渡航期間	自 2018 年 1 月 28 日 至 2018 年 2 月 1 日
<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容 ・国際学会・会議内容 	臨床病期 I 期の放射線学的な part-solid lung adenocarcinoma における肺門縦隔リンパ節郭清の意義: プロペンシティブスコアを用いた予後解析
<p>研究成果 (要約: 800 字)</p> <p>この度、第 54 回米国胸部外科学会議において、プロペンシティブスコアを用いた予後解析による臨床病期 I 期の放射線学的な part-solid lung adenocarcinoma における肺門縦隔リンパ節郭清の意義について報告した。</p> <p>切除可能原発性肺癌に対する至適リンパ節郭清術式に関しては、1960 年に Cahan らが系統的リンパ節郭清を提唱して以来、肺門縦隔リンパ節郭清が基準となっているが、実は世界的に定まった標準郭清術式はない。実際、日米を中心として、リンパ節郭清の至適範囲に関する臨床試験がなされているが、依然、この疑問に答える十分な論拠がない現状である。</p> <p>一方で、胸部薄切 CT の進歩に伴い、切除可能早期肺癌の画像所見から、術前リンパ節転移を認めない臨床病期 I 期における術後リンパ節転移頻度を予測できるようになった。本発表では、画像所見に基づきリンパ節郭清の至適範囲を正確に定めるべきであることを提示した。</p> <p>今回、小型肺癌においても予後良好かつリンパ節転移頻度の少ない事が当科の研究から示唆されている、CT 画像上すりガラス影(Ground glass opacity, GGO)を有する part-solid lung adenocarcinoma を対象として、リンパ節郭清の至適範囲をプロペンシティブスコアリングを用いて検討した。その結果、GGO 成分を多く有する GGO-dominant tumor においては、これまで標準とされる縦隔リンパ節郭清は不要である事、GGO 成分が少なく GGO-dominant tumor と比較して悪性度の高まる Solid-dominant tumor においても、腫瘍マーカーや PET 所見を加味し、症例によって縦隔リンパ節郭清を省略し得ることを示した。本結果は、予後に寄与し内リンパ節郭清を適切に省略する事で、より低侵襲な手術を迫し得る点で非常に意義ある結果と考えている。</p> <p>今回、私が発表を行った米国胸部外科学会議は、世界的に最も権威ある最高峰の胸部外科国際学会の 1 つとされ、本学会での発表は世界的に極めてインパクトのある発表となる。更に、今回の報告は Lung Cancer Session I (Oral presentation) での報告となり、非常に有意義な経験となった。本発表は、既に STS の基幹雑誌である The Annals of Thoracic Surgery に投稿中である。</p>	